

実践報告

小説の読みを深める言語活動の工夫 —第1学年国語科『少年の日の思い出』の授業分析を通して—

大串 浩介*

The Device of the Language Activities
which Deepen Reading of a Novel
First-year Student Japanese in a Junior High School,
Lesson Analysis of "Youth Memory" Was Conducted and Considered

Kosuke OOGUSHI*

【要約】

小説学習を進めるにあたって生徒に喚起させたいことは、小説をただ読み進めるだけではなく、全体像を捉えることと、主題に迫ることである。全体像の捉え方や主題への迫り方は読み手にゆだねられるものだが、小説を深く読むために、本の帯を作るという言語活動を設定した。まずは、本の帯の作成に向かう授業を仕組むことによって自然と小説を読みこむようになり、また、小説を象徴的に表す語句を探させ、それを交流することによって、多様な考え方を共有することができた。

【キーワード】

象徴、本の帯づくり

1. はじめに

本校国語科では、「『確かな国語力』を身に付けさせる言語活動の工夫」をテーマとし、研究を進めている。生徒に、国語科の授業で何を学習したかを問えば、返ってくる返事は教材名であることが多い。これは、単元の取り扱い方に問題があり、どんな力を身に付けさせたいのかが明確にならないまま、授業を行っているためである。そのため、生徒にとっても教師にとっても授業の目的が明確化されず、取り扱った教材の印象のみが残ってしまうのである。それを避けるために、「学習用語」の明示と定着を図る活動を提案したい。さらに、用語学習に陥らないため、学習用語を活用する場の設定が必要になってくる。

そこで、新学習指導要領にもうたわれている「言語活動」の工夫が、教材偏重の授業や用語学習に陥る授業に対する解決の糸口となってくる。言語活動を工夫することによって、教材はあくまで「学習用語」を習得するためのきっかけとなり、さらに、習得した学習用語を活用する場の設定にもなる。

2. 単元の概要

小説の多くは書店での販売によるものが多いことを確認させ、販売の際は帯が付けられていることに気づかせる。そこで、教室に閉じない「学び」とするために、単元を貫く問いは「『少年の日の思い出』を手にとってもらうためには？」を設定し、単元を貫く言語活動は「本の帯づくり」とした。本の帯の

*佐賀大学文化教育学部附属中学校

形態にはいくつかの種類が見られるが、明確な分類がなされているわけではないため、本單元において言語活動の充実を図るために、便宜上、帯の種類を次の四種類に分けさせる。それは、『内容紹介型』（作品中の文やせりふの引用、詩的な表現など）、『推薦文型』（「～さん推薦！」「私（作家・タレント）も読んで感動した！」など）、『売り上げ型』（「～万部突破！」など）、『受賞型』（「～賞受賞！」など）である。そのなかでも、「本文からの引用」「あらすじ」「キャッチコピー」が情報として書き込まれている『内容紹介型』の帯を、読みを深めるための手段として選択した。書きこむ情報の中でも特に、「本文からの引用」に評価の重点を置き、「少年の日の思い出」を象徴的に表現している言葉はどれか、また本の帯として読み手を意識した言葉となっているかどうかを考えさせる。その段階的なステップとして、まず個人で複数の候補を考えさせ、それをグループや学級全体で話し合わせる。この話し合いにより、本文の字義的な読みとりだけにとどまらず、本文中から根拠を探しながら、引用する語句を吟味することができ、さらに、それがより深い読みにつながるのではないかと考える。

単元の授業過程は以下に示す通りである。

全9時間

- 1 本の帯の特徴を捉え、学習の見通しをもつ。(2時間)
- 2 『少年の日の思い出』を通読し、内容を知る。(2時間)
 - 2・1 登場人物、登場人物の関係、あらすじ、印象的な場面や会話、描写を確認する。
 - 2・2 印象的な箇所については理由も含めて交流する。
- 3 本の帯づくりに取り組む。(3時間)
 - 3・1 本文から引用した語句をグループで協議する。
 - 3・2 グループで協議し、各班の代表意見を学級で共有する。
 - 3・3 共有した意見などを参考に帯の作成をする。
- 4 本の帯コンペをする。(1時間)
 - 4・1 相互評価によって学級の代表3作品を選出する。
 - 4・2 各学級の代表作品を掲示し、学年投票する。
- 5 単元の振り返りをする。(1時間)

3. 授業の実際

○本文から引用する語句の選択

本の帯を作らせるにあたり、「本文からの引用」を絶対条件としたのは、「少年の日の思い出」を象徴的に表す言葉を探させるためである。また、どの語句が引用するのにふさわしいのかを考えながら読むことによって、小説のより深い読みや、小説の主題に迫ることができるのではないかと考えた。そのため、本文から引用する語句を考える際は、話し合いを取り入れた。以下は、話し合いの様子である。

(1) グループ協議① [あいまいな協議]

話者	内 容
H	僕は158ページ8行目の「お前はエーミールの所に行かねばなりません。」です。
O	やっぱりそうだった
H	母の言った言葉が強調されているからです。
I	理由は特にないだよね

H	どうぞ
I	一度起きたことはもう償いのできないものだということを悟った。そして、チョウを一つ一つ取り出し指で粉々に押しつぶしてしまった。
O	どっちも人の言葉だけどいいかな
I	いいよたぶん
H	① <u>また長いの？昨日みたいに。</u>
O	いや、昨日ほどは長くないけど・・・。
T	ではどうぞ。
O	1つ目が149ページの11行目からで「妙なものだチョウを見るくらい幼年時代の思い出を強くそそられるものはないと、もう1つは150ページの3行目からで「僕も子どものとき無論収集していたのだが残念ながら自分でその思い出をけがしてしまった。」です。
O	T君は1個？
T	3個・・・。
HI0	3個！？
T	いや、1個に絞る。1個に・・・えと、156ページの12行目「僕はもうどんな不幸が起こったかということを知った」
O	はい、次は？
T	「自分でその思い出を汚してしまった」
O	何ページ？一緒のページだね？
T	あと、「自分は盗みをした下劣な奴だ。」
H	そんな言葉あったっけ？
O	何ページ何ページ？これ全部。
T	えっと、156かな、両方とも。
H	Iさん2個目をお願いします。
I	「そしてチョウを一つ一つ取り出し指で粉々に押し潰してしまった。」
O	班代表どれにする？
I	OさんとT君のが同じだったから・・・。
O T	「自分でその思い出をけがしてしまった」？
I	で、いいんじゃないの？。
T	どこも一緒だ・・・。
H	じゃあ、他ん所にしようか。
I	「一度起きたことは・・・」あ、書いてる
O	そりゃ② <u>みんなとかぶるよね。じゃあそれやめよやめよ。</u>
H	どうするの、かぶるやつにするの？
O	・・・「残念ながら自分でその思い出を汚してしまった」・・・ねえ、これ前の言葉入ってた方がいいと思う？その思い出ってわからないから。
T	入ってた方がいいんじゃない？
O	長いかなあ・・・これ全部入れる？
T	全部でいいよ。
I	じゃあ書いてきます。
H	え？何書くのほんとに？
T	(前を)入れるの入れないの？
I	どれ書くの？
O	これこれ、「僕も子どものとき無論収集していたのだが残念ながら自分でその思い出を汚してしまった。」
I	③ <u>理由教えて</u>
T	前入れるんだっけ？
O	入れない？③ <u>理由ってなに？</u>

H	③「思い出を汚してしまった」でよくない？
O	③じゃあこれでいいや。でもわかる？「その」とか言って
H	「思い出を汚してしまった」
T	④どん、とくればよくない？
I	え？じゃあどこからがいい？「自分で」？
T	いや、「その思い出を」から
I	「自分でその思い出を」？
T	うん、「自分でその思い出を」から (以下省略)

①では、本の帯の性格を考慮に入れた発言であることが分かる。前日の授業において、「印象に残ったところ」を書き出し、グループ内でシェアリングをする、という活動に取り組んでいる。その際、Oは非常に長く書き出していた（教科書13行分）。それを受けての班のメンバーの発言であった。

②では、語句を選ぶ判断基準が他のグループの意見と重なるか重ならないかになってしまっている。これも、本の帯としての意外性を狙ったものとなっている。③に至っては、理由があいまいになり、安易な妥協による意見の決定になってしまった。さらに、④では「どん」という言葉でまとめてしまっており、結局理由はあいまいなままであった。

(2) グループ協議② [本の帯の役割に重点を置いた協議]

話者	内 容
Y	1個目が150ページの5行目で「自分でその思い出をけがしてしまった」で、2個目が155ページの17行目で「その瞬間に僕の良心はめざめた」という言葉で、3つ目が160ページの5行目で「1度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った」という言葉です。
I	んと、1つめが150ページの4、5行目「残念ながら、自分でその思い出をけがしてしまった。」で、2つ目は、150ページの10行目で「カエルが遠くから甲高く、闇一面に鳴いていた。友人はその間に次のように語った。」で、3つ目が159ページの11行目で「つまり君はそんな奴なんだな」で 次は160ページ5行目で「一度起きたことはもう償いのできないもの」で、この次が、160ページ10行目で「指で粉々に押し潰してしまった」と、156ページ17行目の「僕の心を苦しめた」
M	えーと160ページの5行目の「1度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った。」です。
T	150ページの5行目「思い出を汚してしまった」最初の方の。それと、149ページの「思い出が不愉快でもあるかのよう」というところ
T	じゃあ、どれがいいか
Y	でも、⑤ <u>これが一番多くない？</u> 「1度起きたことは・・・」っていうやつ
T	え？それが一番多かったっけ？
I	どっちも3つずつ。どっちがいい？
T	僕は「思い出」の方がいいなあ
Y	え？なんかそれ⑤ <u>多そう</u> じゃない？
T	そう？
M	⑤ <u>こっちの方が多くない</u> と思う
T	僕もそう思う。だいたい、⑥ <u>帯にしたときにその題名とのギャップで興味が惹かれるん</u> じゃない。えー、なに汚された思い出ってー、みたいな？じゃあ、どうする？これでいい？
I	僕はそれがいいと思うよ。
I	じゃあさあ、理由は？考えようよ。

M	これを使って帯を作るとしたら、どうなるの？
T	どんな感じになるかと言うと、⑥「少年の日の思い出」っていう題名があるわけでしょ？えっとそれで、下に「思い出を汚してしまった」ってあるわけだから、矛盾する感じで興味そそられない？
Y	うん、そうだね。理由は、題名と矛盾するから、でいい？
T	うん、逆に、逆にね。あの（小説の）⑦最後の方から選ぶとさ、悲しい感じってのが分かっちゃうじゃん。だからさ、あえてさ、思い出を汚してしまったで、なんかよくわかんない感じにして。
M	もう一言（帯に書き込む言葉）ある？
T	え？2つ選んでいいのかな？ただ、⑧あんまり多いと物語だいたいこんな感じかなってわかつちやうとまずくない？
M	むしろ分かった方がいいんじゃない？
T	なんで？
M	だって、なんか興味がない人はこれでだいたい（話の内容が）分かるし。
T	でも、興味出なくなる人もいるし・・・だからこういうのが・・・。
M	じゃあ、あえて一言にする？
T	うん、あえて一言にする。
M	じゃあ、「自分でその思い出を汚してしまった」にする？
T	オッケーです。
T	あ、ちょっと待って。どうする？⑨「思い出を汚してしまった」だけにするか「自分でその思い出を汚してしまった」にするか。
M	「自分でその」の方がいいと思う。
Y	私も「自分でその思い出」の方がいいと思う。
T	でも、なんか「その」ってつくとき・・・
M	じゃあ、「自分で思い出を汚してしまった」
T	だめだろ、引用じゃないし。
I	でもさ、⑩「その」ってなんだ？って感じにもなるんじゃない？
T	ん～、そこを考えると、「思い出」だけの方がいい気もするけど
M	「思い出を汚してしまった」でいいかも。
T	⑪ズバッと言った方がいいかな、ズバツと。
Y	じゃあ、「思い出を汚してしまった」でいいかな。
T	うん、そうしましょ。 （発表者は黒板に書きに行った。そのあとのグループのつぶやき）
I	でもさ、⑫「自分で」がよくない？
T	なんで？でも、⑫「その」が入るとなんかおかしくなるよ。あと、もしかしたらさ、思い出を汚してしまったけど、だれかが汚したみたいに・・・友達の思い出を汚した、みたいになるかもしれないから、あ～んってなって、こう、興味がこ～、うわっとなると。 （教師への質問）
T	先生(Te)、帯っていうものの役割は、見た人の頭をごちゃごちゃになるべくして、そんで興味をそそるっていう・・・。
Te	あ～、なるほどね、読んでから解決するっていうのはあるかもね。
T	「少年の日の思い出」って聞くと感動ストーリーとか考えるじゃないですか。ただこうやることで「ええ！？」ってなりそうじゃないですか。
Te	おもしろいね。 （グループのつぶやきに戻る）
Y	じゃあ、理由をまとめるとどうなる？
T	矛盾していて、見た人の頭をごちゃごちゃにすることができるから
Y	え、ごちゃごちゃにしてどうするの？

M	⑬ <u>ごちゃごちゃにすることによって、その中身を読んだら、なんかそのごちゃごちゃしているのが解決して・・・</u>
M	⑬ <u>より興味をそそられる。</u>
T	おお、おお、おお、そうそうそう、まさにそう。 (以下省略)

⑤からは、グループの中で出た意見の多さで、まずは考え始めている。ここにおいては何も理由が表れていないが、⑥では「思い出」という小説の題名の一部に注目し、帯に掲げる言葉との関連性をもたせ、意外性を狙うことを理由として挙げている。また、⑦においては、なぜ小説後半部からの引用を認めないかの理由が述べられている。さらに、帯に書き込む言葉をもう一つ選んでみてはどうだろうかというメンバーの提案に対して、⑧のように否定的である。これについても明確な理由をもって反論している。

⑨⑩においては、非常に繊細な吟味を行っているように感じられる。「思い出を汚してしまった」にするか、「自分でその思い出を汚してしまった」にするかで悩んでいる。悩むポイントとなったのは「その」という指示語である。論点としては、「その」という言葉から、読み手に何かを連想させるために入れるのか、それとも、余計な言葉は差し込まず、端的に題名との関連で「汚してしまった」という言葉に重きを置いて印象付けるのかであった。その決着は⑩に依ってしまった。「ズバッ」というあいまいな表現による理由づけである。ここには、今少し吟味の余地が残されており、むしろ、ここを話し合うことによって読みが深まる可能性もあったのではないかと考える。⑫においても、メンバーの中には納得できていない者もあり、十分な協議ができなかったように見受けられる。その反面、⑬においては、別のメンバーは共感や理解が進んでいるように思われる。

(3) グループ協議③ [登場人物の心情に迫る協議]

話者	内 容
M 1	ああ、じゃあ・・・一番の人から・・・じゃあ、俺が、150ページの5行目と6行目の「一つはなしを聞いてもらおう」です。⑭ <u>選んだ理由は、なんか興味がわきそうだから・・・もう一つは151ページの4行目の後半ですね「熱情が身にしみて感じられる」</u> どういうことなのか、⑭ <u>興味が惹かれるものになるんじゃないかなあ</u> と思ったからです。
M 1	じゃあ、2番の人。
T	えと、私は154ページ15行目の「上にたどり着いて、部屋の戸をノックしたが、返事がなかった。エーメールはいなかったのだ」と言うところで、⑭ <u>なんか冒険心がわくから</u> 。もう一個は155ページ14行目の「エーメールの部屋から持ち出した。そのときさしずめ僕は、大きな満足感のほか何も感じていなかった。」ってところで、なんか⑮ <u>自分が戸惑い始める前の心情を描いているから</u> です。
M 1	3番の人。
O	えと私は149ページの11行目の「妙なものだ。チョウを見るくらい、幼年時代の思い出を強くそそられるものはない。僕は小さい少年のころ熱情的な収集家だったものだ。」という言葉です。まあ同じで、⑯ <u>ここからだんだん会話が始まっていくし興味がでるかなあ</u> と思ったからです。
M 1	はい、4番の人。
M 2	ええっと僕は、160ページの5行目から6行目で「その時初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った。」です。理由は、僕が⑰ <u>したことは取り返しのつかないことだと気づくことができた瞬間だ</u> と思ったからです。
T	どれがいいとかあった？

O	う〜んとねえ・・・
M1	多数決する？
T	ちょっと待って・・・ (しばらくそれぞれ考えて)
M1	はい、じゃどれがいいとかある？
M2	う〜ん・・・どうしますか？
M1	短い方がいいんじゃない？どうする？
T	Oちゃんのいいと思うんだけど。
O	でも長いんだよね〜。
T	⑮長いけどいいと思うんだよね。
T	これよくない？一つ聞いてもらおう。
O	一つ聞いてもらおう？
T	なんかさあ、誘惑してる感じあるやん？
O	うん。
M1	一つ聞いてもらおう、か。
T	なんか他に意見ある？
M1	ない。
O	どうしよう。
O	司会の方お願いします。
M1	じゃあ⑯多数決取ります
O・T	多数決！？
M1	自分以外の意見で・・・
T	時間そろそろだ・・・
M1	これいいなあってやつ・・・じゃあ、⑰推薦にする？
T	よし、じゃあ推薦で。
M1	ひとりひとり、自分以外のやつで一番良かったやつで。
T	おっけー。
M1	じゃあ、僕はOさんのやつで、「妙なものだ・・・」がいいと思いました。
T	わたしはM2の「その時僕は・・・悟った」ていうところ。
O	う〜んどうしよう・・・ちょっとまだ決めてない。
M2	うんとねえ・・・M1の「一つ聞いてもらおう」がなんか・・・
T	じゃあ、うちもそれいいかも・・・短いし
O	うん、⑮短いし・・・端的だよね
M1	じゃあそれでいこうか。
T	発表しなきゃいけないから理由なんて言う？
O	理由は、⑰「一つ聞いてもらおう」は読者の興味を引き付けるから。
T	⑱誘っているから。
M2	⑲それでいいんじゃない？ (話し合いの時間終了)

この班でも、⑭が示す通り、小説を象徴的に表す言葉を選ぶというよりも、本の帯の性格を優先して、読者により訴えるものはどれかという観点から言葉を選んでいる。しかし、⑮⑯⑰を見ると、本の帯の性格よりも、作品中の登場人物の心情に迫るものであったり、小説を展開するにあたって重要な部分を書きだしたりと、これまでの二班とは違った角度からの理由付けが行われている。だが、残念なことに、⑮や⑯を見ると、語句の選択の最終的な判断基準が、本の帯の性格を優先させた言葉の長短になっていたり、多数決や推薦（多数決よりは話し合いに近い決定方法だが、今回の場合は推薦に伴う根拠が欠如しており、結局のところ多数決と変わりがない）による安易な妥協であったりしている。最終的には、⑳のように本の帯の性格を優先した読者の立場からの判断理由となった。

4. 考察

今回、「少年の日の思い出」を深く読ませるために、言語活動を「本の帯づくり」に設定したが、上記の生徒間でのやり取りを見る限りでは、教師の思惑と生徒の活動がかけ離れたものになってしまったことがわかる。こちらのねらいとしては、本の帯を作ることによって、特に本文からの引用を行わせることによって、作者の主題や、登場人物の心情を表す言葉、ひいては作品全体を象徴的に表す言葉が出ることを想定していた。つまり、読者を増やしたいという本の帯の性格も考慮には入れるものの、真のねらいは常に「小説を象徴的にあらわす言葉」だったのである。しかし、ここに挙げた話し合いの内容を見ると、どうしても「本の帯の性格」を優先させた理由付けが多くなってしまっている。この原因として考えられるのは以下の2点である。

1点目は、「少年の日の思い出」から「小説を象徴的にあらわす言葉」をさがさせるのに、「本の帯づくり」という言語活動が適切であったかどうか、である。本校国語科の研究テーマ設定の理由のひとつとして、「実生活・実社会」で活用できる力を育むことを掲げている。そのために、単純に「小説を象徴的にあらわす言葉」をさがさせるのではなく、「小説を象徴的にあらわす言葉」が「実生活・実社会」で表現されているものを、単元を貫く言語活動として設定をしたかった。しかし、本の帯にも多くのパターンがあり、帯に書き込む情報のひとつとして「本文からの引用」という限定をしたとしても、こちらのねらいに近づくことは難しかった。

2点目は、「本の帯づくり」をさせる際に、こちらから与える条件があまりにも拡散的であったということである。「小説を象徴的にあらわす言葉」を本の帯の中に表現させる活動を行わせるにしても、設定した条件が「本文からの引用」のみであった。これは、本文から引用さえすれば、残る条件は「本の帯の性格」だけである。すると、生徒の思考過程としては、本分から引用するという最低条件をクリアすれば、あとは読者にどれだけインパクトを与えられるかという点に重きが置かれる、ということが考えられる。そのため、上記の生徒の話し合いのように、判断基準が言葉の長短であったり、題名との関連による意外性であったりしてしまった。

よって、まずは「小説を象徴的にあらわす言葉」を探させるために、単元に設定する言語活動を再考しなければならないということ、つまり、教材と言語活動と学習用語をどう選択し、組み合わせるのかということを考えなければならない。さらに教材によって何を学ばせるのか、という点も考えなければならない。これは、来年度も研究を進めるに当たって大きな課題となってくる。生徒の実態があり、生徒につけさせたい伸ばしたい力を見つけ、目標を立て、単元を設計していく。この過程を必ず踏まなければならないと感じた。

また、生徒に活動を促す際の条件設定の難しさを痛感させられたため、活動をどこまで集束させるのが課題となる。今回の「本文からの引用」についても、あまりにも拡散的であったと感じる。「小説を象徴的にあらわす言葉」をさがすためにはどのような条件設定が必要であったのか、また、これからの発問の仕方やワークシートの作成方法にも関係してくる。生徒に何を学ばせたいのかを明確にしておくためにも、必要なことである。

5. おわりに

今回の単元を進めるにあたって課題として残ったのは、身に付けさせたい「学習用語」にふさわしい「言語活動」や「教材」をどのように選択するのか、である。生徒の実態を正確に把握したうえで、どんな力を身に付けさせたいのか「学習用語」を明確にし、その「学習用語」を身に付けさせ活用させるためにはどのような「言語活動」を設定すべきなのか、さらに、それらを適切に活動させるためにはどの「教材」を選択すべきなのかを熟考する必要があった。まずはその点を次年度に向け改善したい

また、学習用語をはじめ、授業内で扱う言葉が持つ意味に敏感にならないと感じた。今回ご指摘いただいたのは、「象徴」という言葉についてである。「象徴」の意味には狭義のものと広義のもの、さらに、「象徴的」といえばさらにニュアンスは変化してくる。言語を操る教科として、この点もご指摘いただいたのはありがたいことであった。